

開催地名：岐阜県羽島市	
開催日時	令和元年12月1日（日） 10：00～11：30
開催場所	羽島市福祉ふれあい会館
語り部	佐々木 美代子（岩手県陸前高田市）
参加者	羽島市防災コーディネーター 約70名
開催経緯	<p>当市では幸いにも災害経験がないため、ボランティア活動の実績も少なく、全コーディネーターによる活動に至っていない。従って、防災コーディネーターの一層の防災意識の高揚を図るとともに活動の裾野を広げる必要があると言える。また、男性に比べ女性の活動が希薄であるため、活性化を図る必要がある。今回、女性の語り部からお話を伺うことで、今後の防災活動の一助としたい。</p>
内容	<p>（1）大地震発生当時の状況について</p> <p>14:46の大地震発生後、すぐに津波が襲来。最高高さ約18メートルで、市の人口の約7パーセントに当たる約1,800名が犠牲となった。それだけの犠牲者が出た最も強い要因は、過去に経験のない高さの、予想外の津波が襲来して住民が対応する間がなかったことによる。（1960年チリ地震の津波の際も、津波はわずかに50センチメートル、そして、この大地震発生直後の津波予想は3メートルだったということで、過去の状況に照らし合わせて、過信して各自の対応が遅れた結果、被害が拡大した。）</p> <p>（2）避難時の対応とその問題点について</p> <p>避難に関して大切なポイントは3つあると思う。まず日頃から危険に対する予見をどの程度持っているか。下手に動くよりも静観した方が良いケースやマンションなどしっかりした建物では上階に逃げた方が良い場合もある。東日本大震災時は市の指定避難場所に逃げ込んだ人の約90パーセントが犠牲になった。公的に認められた指定避難所も必ずしも安全ではないと認識してほしい。さらに、自分の体力がどの程度であるかも把握しておきたい。あらかじめ避難場所を決めておき、ウォーキングをしてみるなど、避難にかかる時間を把握しておくことも大事である。</p> <p>また、地震発生後約3日間は食料などの支援物資が届かなかった。停電で電気も使えなかった。皆さんには3日間を自力でしのげる食料と物資を備えるようお願いしたい。</p> <p>（3）災害弱者の視点導入</p> <p>防災・避難計画は男性目線で立てられることが多い。そうすると細かい配慮が足りなくなる。女性や高齢者、障害を持つ方などの意見を取り入れての計画策定</p>

が望ましい。それは災害弱者と言われる方たちが、当事者意識を持つことにもつながる。

陸前高田市に限らず、全国的に防災計画というものは、専門的立場の者たちが考えているが、実際はあまり役に立たず、更には具体性もないものが多い。従って、最終的には自分の身は自分自身で守れとなってしまいう訳であるが、実際問題として非常に難しい。そこで、緊急時に自分自身で避難するのが難しい高齢者、障害を持つ方々の声や、女性の方々の意見を参考に取り入れて、具体的な計画を作っていくことが望ましいと思われる。そうすることによって、いわゆる「災害弱者」と言われる人たちが当事者意識を持ち始めるきっかけにもなるかと思う。運営面においても、女性でなければなかなか言いづらいということもあるので、地域で女性だけの団体を立ち上げて、活躍できる場を考えていく必要があると思う。

震災時の実例を挙げる。生後3か月の乳児を連れて津波から山の中に逃げ込んだ母親がいた。乳児を食料のない状況から救う方法を、男性は思いつかない。まわりの女性が危険を冒して、津波の引いたときに下山し、鍋と小麦粉を見つけた。鍋に小麦粉を水で溶き、のり状にしてハンカチに含ませ赤ちゃんに吸わせた。それで生き延びたそうだ。

(4) 最後に

この大震災を経験したことにより、日頃からどれだけ実際の被害を想定した訓練を実施していたかが、生死の分かれ目になることを実感した。そして、被害者、犠牲者を出さないという気概で取り組まなければならないと思う。



開催地より

本日の受講者各々が、本日聴いた内容を周りに伝えることによって、「防災意識」というものが深く根付いてくれればと思う。そして、将来災害が発生したときのために、備えた活動を行っていききたいと思う。